

総合防災訓練

阿武町

津波、列車脱線、孤立集落…災害は人ごとではありません！

山口県総合防災訓練 2008 in 阿武

■地球温暖化の影響か：  
自然災害も多様化した  
2008年

2008年も岩手・宮城内陸地震や、ゲリラ豪雨と呼ばれる局所的な大雨など、自然災害に見舞われた日本列島。いっどこで遭遇するか分からない災害に対応するために、普段からの備えと心構えが必要です。

地域防災力の向上を目指して、住民や地域団体と消防、警察、自衛隊などの防災関係機関が協働して、毎年大規模なスケールで行われる「山口県総合防災訓練」。2008年は「見直そう みんなの町と 防災意識」をサブタイトルに、8月31日、県北部に位置する阿武町で60団体約1,500人が参加して実施されました。初回の昭和38年度から数えて43回目の開催となります。

■整備された奈古漁港で  
ダイナミックな訓練を  
実施！

今回の訓練は「平成20年8月31日午前8時、県北西沖を震源とする地震が発生。マグニチュード

ヘリコプターで県警広警隊バイクを搬送



7・8、震度は6弱(阿武町)の規模で、発生から約1時間後に3メートルの津波が沿岸部に到達」と想定。阿武町役場、奈古漁港(埋立地)、JR奈古駅の3ヶ所をメイン会場に、町内全7会場で行った避難訓練などの災害予防訓練、防災関係機関や医療関係機関、ボランティア団体等による救出・救助訓練及び応急対策訓練を行いました。

メイン会場の1つである奈古漁港は、2008年3月に埋め立て工事が完了したばかり。港の先端部分はヘリポートとして機能し、陸上自衛隊のヘリコプターによる救援物資搬送や県警広警隊バイクの搬送などが行われました。ほかに倒壊家屋からの救出救助や、消防防災ヘリコプター「きらら」による津波水難住民つり上げ救助など、ダイナミックな訓練が多く実施されたほか、こちらの会場には20の展示・発表ブースも設



さまざまな展示コーナーテント



大釜での炊き出し

置。起震車「ゆさゆさ号」による地震体験や、災害伝言ダイヤル体験、応急給水訓練や大釜による250人分の炊き出しなど、多くのテントが建ち並びました。

■それぞれに考える  
災害時の心構え  
実践さながらの緊張感

山口県建設業協会秋支部からも、阿武町奈古に本社をおく小田建設株式会社から大野幸雄さん、吉屋典純さんの2名が奈古漁港会場の訓練に参加。地震によって、停車中の車の上に土砂と木材が倒れ、道路をふさいでしまっているとい



撤去作業はあざやかなコンビネーション

う想定のもと、土砂と木材を撤去する作業を行いました。

まずはバックフォアによって大きな土砂をトラックの荷台に積み、残りの土砂と木材をシャベルですくって、車の上から撤去します。バックフォア担当の大野さんとトラック担当の吉屋さんはクラクションで合図を送りながらタイミングをあわせ、息のあった素早い行動で、あつと言いつつ土砂を撤去。わずか10分ほどの手際のよい作業に、見学者も目を見張っていました。

訓練終了後お二人にお話を伺うと、大野さんは「まだ地震の時に作業に出たことはないですが、阿



左：吉屋典純さん、右：大野幸雄さん

武町は日本海沿岸ということもあり、高潮や豪雨の災害の頻度は高いです。今日のような訓練を行うことで、どんなときでも冷静に対応できればと思います」と日頃から心構えの大切さを話しておられました。また、吉屋さんは「この仕事について28年目になりますが、10年前豪雨による土砂崩れの現場に向かったことがあります。現場の惨状は今でも忘れられません。作業中は『下を掘ると上のものが落ちてくる』。当たり前のことですが、そのような現場では、いつも以上に『当たり前』に注意することが大切ですね。」と二次災害の危険性について改めて気を引き締められていました。

### ■県内初、列車脱線事故を想定した訓練も実施！

そのほか、阿武町役場会場では、阿武町災害対策本部、山口県現地



災害時の対策について説明

災害対策本部、消防応援活動調整本部を設置するとともに、参加団体による緊急連絡用回線の開通、提供訓練が行われ、災害時の情報伝達の中心部としての運営訓練を実施。JR奈古駅では、列車脱線事故を想定した訓練が行われ、約40名の乗客をJR社員や県緊急消防援助隊、DMAT（災害派遣医療チーム）、地元消防団が救出作業にあたりました。また、メイン会場以外でも、災害時に体の不自由な方を避難させる訓練や、火災防衛訓練、中山間地域での孤立集落を想定した孤立住民救出や救援物資搬送など、地域の状況に即した訓練が各地で実施されました。

夏休み最終日に行われた今回の総合防災訓練。参加された方々はもちろん、ご家族連れや小・中学生の団体など多数見学者がありました。訓練の数々から伝わった緊迫感に、災害は他人事ではなく、いつ自分に起こるかもしれない出来事なのだ、改めて防災について考えるよい機会になったのではないかと思います。

## 地震に対する防災対策

### 話す

「自宅近くの避難場所はどこか」  
「家の中で一番安全な場所はどこか」  
など、家族で話し合う

### 点検

リビングや寝る場所の近くに家具が倒れてこないよう配置したりタンスや本棚を固定するなど家の中を点検する

### 準備

すぐに取り出せる場所に懐中電灯やラジオ、非常食水など非常持ち出し品を準備しておく